

相生市立図書館

図書館ゆうびん YA向け

2024年 春号

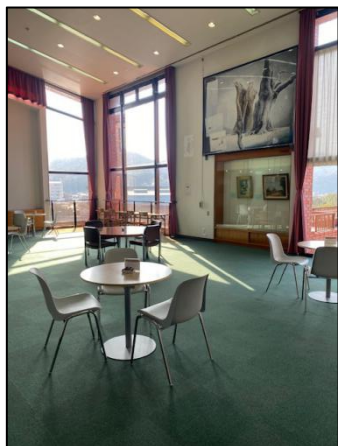
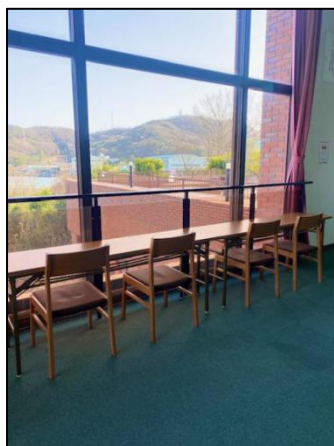


〒678-0053 兵庫県相生市那波南本町11番1号

TEL 0791-23-5151

入学・進級おめでとうございます！心も体も大きく成長する中高生の時期に生涯の友となるような本との出会いがありますように。この「図書館ゆうびん YA向け」では中高生のみなさまへのおすすめ本や図書館の便利な使い方などを発信しています。

相生市立図書館ってこんなところ！



図書館って「本を借りる」だけじゃないよ。
いつでもだれでもウェルカムです！



2階 学習室

冷暖房完備！だれでも自由に使えます。

静かなので集中して勉強できます！

2階 思索の広場

新しくカウンター席ができました。

大きな窓に面しているので明るくて眺めも最高です。思索の広場では飲食、おしゃべりもOKです。



1階 雑誌コーナー

ティーン向けの雑誌もあります。

図書館のHPから検索・予約できます。



図書館HPはこちら
開館日も
確認できます。





Interview with a teacher !

インタビューにお答えしてもらったのは、^{ふくもと ぎし せいさくじょ}福本義肢製作所の福本代表です。

2号線姫路方面から相生陸橋に入る側道沿いにお店があります。

Q1 どんな中学生・高校生でしたか？

A1 双葉中学校で剣道部に所属していました。勉強は得意ではなかったです。三年生で部活を引退すると周りは受験勉強をしていましたが、自分はフォークギターに熱中していました。東洋大学付属姫路高等学校に進学し、サッカー部に入りましたがケガで退部し、そのあとはバンドを組んでギターを弾いていました。ギターが弾けてもモテませんでしたよ。当時の東洋大姫路は男子校ですから、女の子と知り合う機会があまりありませんでした。



Q2 高校卒業後の進路について教えてください。

A2 父が義肢製作所を営んでいたもので、自然と義肢を作る仕事に興味を持っていました。でも高校三年生の秋に母を亡くし、しばらく無気力になっていました。一応専門学校を受験しましたが受からず、卒業後は父の製作所でアルバイトをしていました。進学か就職かと考えていた時、埼玉県所沢市にある国立身体障害者リハビリテーションセンター学院で日本初の「義肢装具学科」が創立されることを知りました。当時は「義肢装具士」という名前もなく、義肢を作るために特別な資格は必要ありませんでした。数年後から国家資格化が決まろうとしていたので、それに合格するために学ぶ、一学年12名の厳しい学校でした。義肢を作るためには人体構造を理解しなければいけないので人体解剖を見学する授業もありました。人生で一番勉強した3年間でした。学校を卒業し、資格の試験を受け、社会人一年目に国家資格に合格しました。

Q3 当時好きだった本はありますか？

A3 資格の勉強ではレポートの提出が度々あり、本から文章を書くコツを得ようと赤川次郎、星新一、村上春樹などの本を読むようになりました。新聞や雑誌でもいいのでたくさん読むことで読み解く力と想像力がつくと思います。



Q4 将来について考える、中高校生にメッセージをお願いします。

👉 **カラフルでおしゃれな義足も！**

A4 「義肢装具士」の資格を取得してから製作所の現場で仕事をしましたが、4年目に国立リハビリテーションセンターの研究所に戻り、さらに深く義肢について勉強しました。そして早稲田医療専門学校で義肢装具学の先生としても働きました。中高生の頃には考えてもいなかったことです。でも後悔もたくさんあります。人生なんて「あの時こうしていれば…」の連続ですから。でも後悔があるからこそ「じゃあ今の自分には何ができるだろう」と考えられるのだと思います。私たちは医療職でありながら職人の集団ですから、学び続け、自分たちの技術を社会に役立てることを常に考えています。

福本さん、素敵なお話をありがとうございました！

会社の中を見学させていただきました。👉

病院と連携し、一人一人に合わせて手作業で義足やコルセットを作る、まさに職人技！



ありがとう
ございました



ちょっとのぞき見！ だれかの人生



歴史上の偉人だけでなく、社会に影響を与えた活動家やアーティストなど、その人生が本として記されている人物はさまざま。今まで関心を持っていなかったことがらや、詳しくは知らなかった人について知ることで、新たな視点を得られることがあります。

『転んでも、大丈夫』白井 二美男//著 ポプラ社 91-ウ

手や足を失った人は、同時に挑戦する勇氣や人生の可能性、生きる喜びまで失うことがあるという。スポーツ義足製作の第一人者・白井二美男さんは、体の一部を失った患者の体だけでなく、心を支えるような義足作りをしている。一人一人のニーズに合った世界でたったひとつの「血の通ったような義足」。寝ても覚めても義足のことを考え、試行錯誤を繰り返す、白井さんの情熱がそれを作り上げる。



となりのページ（←）の福本さんも白井さんと一緒に義肢制作のお仕事をされたことがあるそうです！

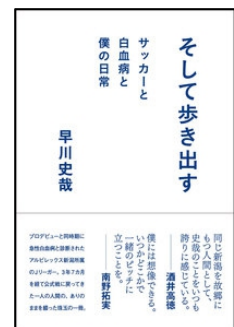
『ソリアを森へ』チャン グエン//作 ジート ブーン//絵 杉田 七重//訳 鈴木出版 P-ガ



幼い頃、虐待されているクマを目にしたチャーンは、野生動物を守る仕事に就くことを決意します。大人になり、保護活動センターのボランティアに採用されたチャーンは、保護されてきたマレーグマの赤ちゃんソリアと出会います。ソリアを森に戻すため、自力で生きていけるよう必要なことを学ばせ、最適な地を探します。ベトナムの自然保護活動家チャン・グエンの若き日を描いたグラフィックノベル。

『そして歩き出す』早川 史哉//著 徳間書店 783-ハ

Jリーグデビューをはたした2016年春、突如、急性白血病と診断されたアルビレックス新潟の早川史哉選手。骨髄移植手術を行い、闘病、リハビリ、トレーニングを続け、2019年8月、3年5か月ぶりに公式戦のメンバーに戻ってきた。早川選手は、どんな思いで日常を過ごし、どんな壁にぶつかり、どう受け入れ、どう生きてきたのか。もがき、苦しみ、そして歩き出した、ひとりの人間のありのままの生きかたを綴った一冊。



『フィボナッチ』 ジョセフ ダグニーズ//文 ジョン オブライエン//絵 さ・え・ら書房

28-フ



中世イタリア。レオナルド・フィボナッチは数のことを考えていました。授業中も窓の外に鳥や葉の数を数えてばかり。そのため周りからは「のうなし」と呼ばれていました。大人になり、世界を旅したフィボナッチは、外国の数字や数え方を学びます。特にアフリカで出会ったアラビア数字に魅せられ、やがて自然界の多くのものが、ある決まった数でできていることに気づきます。かつて「のうなし」とからかわれた少年が、後にフィボナッチ数列と呼ばれる数列を発見した瞬間です！レオナルド・フィボナッチは、今では史上もっとも優れた数学者のひとりと考えられています。

『いつかすべてが君の力になる』 梶 裕貴//作 河出書房新社 78

世界的に有名なアニメの数々で主役級のキャラクターの声を演じる梶さん。「声優」という存在を知り、目指したのは14歳の時。高校卒業後はバイトをしながらレッスンを受け、オーディションを受け続ける日々。努力が報われず、泣きながら家に帰ったり、自暴自棄になってヘアスタイルをモヒカンにしたり…。でもどんな壁にぶつかっても声優という仕事に関われることが、うれしくて仕方がなかったといいます。若い読者に寄り添うような語り口調や、物事に対しての丁寧で謙虚な姿勢から、梶さんの人柄の良さが伝わります。



『ざんねんな歴史人物』 真山 智幸//著 Gakken 28

『失敗図鑑』 大野 正人//著 文響社 28

立派な人の伝記を読んでいると、なんて素晴らしい人生なんだ！と感動することもしばしば。でも、歴史に名を残す偉人たちにも失敗はありました。おちょこちょいで忘れ物の常習犯、初代総理大臣の**伊藤博文**。国から支給された研究費用を飲み代に使



ってしまうパリピな**野口英世**。ギャンブル依存症だったロシアの文豪**ドストエフスキー**。高すぎる理想を部下たちに押し付け、自分で作った会社 Apple Computer を追い出された**スティーブ・ジョブズ**…。クスッと笑える失敗から、シャレにならん失敗まで。しかし大切なことは「そこからどう立ち直るか」だということを教えられます。